



特定非営利活動法人
富山県防災士会 会報
(NPO 法人日本防災士会・富山県支部)

第 30 号
令和 3 年 7 月 1 日
発行 富山県防災士会
連絡先 090-3760-3702
(事務局長：上田)

～防災協働社会の実現にむけて～
理事長 佐伯 邦夫



日頃より NPO 法人富山県防災士会の活動に深いご理解と多大なご支援を賜り、誠にありがとうございます。

小杉前理事長に代わりまして、令和 3 年度より理事長を務めさせていただき佐伯邦夫です。

さて、令和 3 年度通常総会が 5 月 29 日に開催される予定でしたが、新型コロナウイルス感染症の収束が見えてこない状況から、大変残念ではありましたが、2 年連続の書面表決での総会となりました。

本会の会員数は、令和 3 年 5 月末日で 273 名になっております。令和 2 年度の防災士養成研修が 3 月末に実施され、新たな認証者が入会されることにより、更に会員数が増えるものと思われま

す。会員が増加し、組織が拡大する中で、顔が見える関係づくりが困難な状況ではありますが、令和 3 年度事業では、地区ブロックによる事業運営やオンライン (Zoom 等) によるスキルアップ研修等、新たな活動に取り組む予定です。また、行政・関係機関と一層密接な連携を図り、住民の自助・共助の推進に向けた防災意識啓発活動を継続し、モデル地区で地区防災計画の策定を支援することに特に重点を置きたいと考えています。

そして、防災・減災のために活動する団体の支援、学校教育における防災・減災支援にも積極的に取り組んで参ります。

新型コロナウイルス感染症という未曾有の事態であり、活動面においてさまざまな制約がありますが、会員の皆様には感染や健康にご注意をいただき、地域防災力の向上に取り組んでいただきたいと思います。

今日まで、多くの会員の皆様のご尽力に支えられていますが、この度の難局も会員の皆様とともに乗り越え、本会の目指す防災協働社会づくりが達成できるよう、なお一層皆様のお力添えを賜りますようお願い申し上げます。

今後ともよろしくお願いたします。



令和 3 年度通常総会と
書面表決の結果について

令和 3 年度の通常総会が 5 月 29 日、書面表決により開催されました。

正会員総数 272 名に対して書面表決者は 208 名と過半数を満たし、本総会は成立しています。

第 1 号議案から第 4 号議案までの賛成は 206 名、第 1 号議案から第 4 号議案まで反対は 1 名、棄権者は 1 名でした。

以下に会員の皆さまからのご意見の一部を紹介します。

- 地区防災計画の策定を防災士自らが地域に働きかけ、今以上に影響力を発揮すべきと思う。
- 事業の開催場所が、富山市に多く持たれていますので、呉西でも開催されればよい。
- SDGs に賛成。防災士の基本理念を理解し「災害に強いまちづくり」を進めるため、富山市 SDGs 推進コミュニケーションの資格を取得したい。
- (役員の) 半分近くが新任なのは、驚きましたが、これが健全だと思いました。
- 昨年度に入会しましたが、活動内容がわからず、オリエンテーションを切望します。
- 研修について、録画や YouTube 配信などを希望します。
- 会員相互の情報交換や相談ごとのため、メーリングリスト等を利用してはどうか。
- 感染症対策の避難所開設訓練の実施と研究を希望します。
- 小規模講習会に PC で使用できる資料が欲しい。
- 市町村単位の防災士連絡協議会のありかたを考える時期になると思う。
- 富山県防災士会と日本防災士会富山県支部の活動を同じように扱うのはおかしいのでは？
- 富山県防災士会の組織に支部としての役割と活動を明確に示すことが必要と思う。
- SDGs の基本理念について、大変考えさせられた。



一昨年の総会の様子

以上ご案内いたします。



～特別寄稿～

南海トラフ地震と富山への影響

富山県防災士会顧問 竹内 章氏（富山大学名誉教授）

南海トラフでは、日本海や西日本がある大陸（ユーラシア）プレートの下に、フィリピン海プレートが年間数cmの速度で南西向きに沈み込んでいます。このプレート境界で蓄積されたひずみを解放する海溝型大規模地震が「南海トラフ地震」です。過去1400年間を見ると、南海トラフでは約100～200年の間隔でマグニチュード（M）8クラスの巨大地震が発生しており、直近では、昭和東南海地震、昭和南海地震がこれに当たります（図1）。最後の大地震発生からすでに75年が経過し、次の大地震発生が切迫しています。1985年兵庫県南部地震（阪神淡路大震災）以来、西日本が内陸型地震の活動期にあるのもこのためです（図2）。

では、次の南海トラフ地震の発生はいつか？ その予測可能性を紹介します。1361年正平地震以降～現在までの660年間は発生間隔が約90～約150年になります。詳しくみると、既往最大と言われている宝永地震と、その後発生した安政東海・南海地震の間隔は147年であるのに対し、宝永地震より規模の小さかった安政東海・南海地震とその後に発生した昭和東南海・南海地震の間隔は約90年と短い。

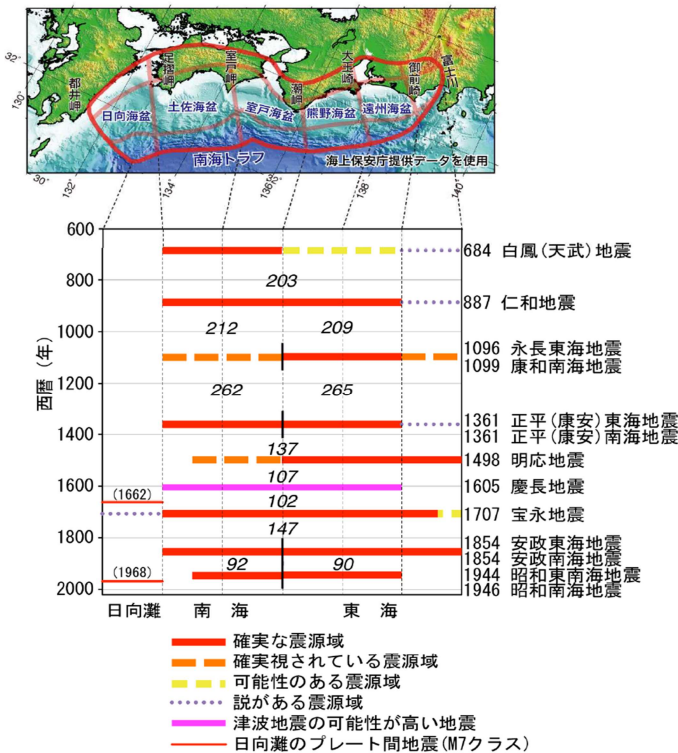


図1. 歴史記録からみた震源域の多様性

地震の規模は震源域の面積で決まるので、図中では震源域の幅が広いほど地震マグニチュードは大きい。地震本部（2013）「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）」より。

これは、宝永地震以降の活動に限れば、次の大地震が発生するまでの期間が、前の地震の規模に比例するという時間予測モデルが成立している可能性を示します。

図3は高知県室津港の隆起量にもとづく時間予測図です。前回から次回までの地震の「標準的な発生間隔」を求めると88.2年になり、次の地震発生は西暦2034～2038年頃に推定されます。地震本部発表（算定基準日：2021年1月1日）では、今後30年以内のM8～M9クラスの地震発生確率70%～80%です。これほど切迫度は高いです。

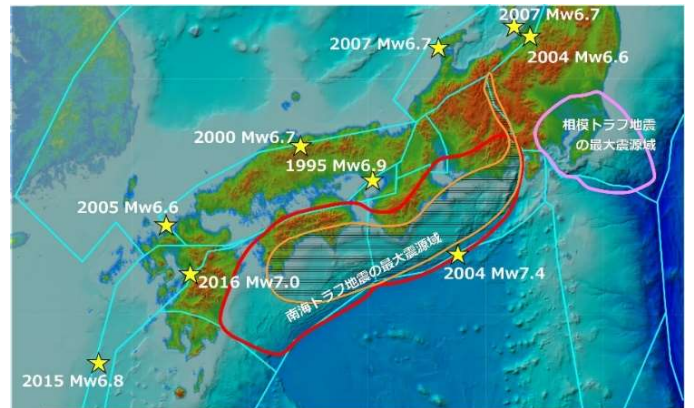


図2. ブロック構造と南海トラフ地震の震源域

水色線はブロック境界、赤線・桃線は海溝型地震の震源域。黄星印は近年発生した大地震の震源地。橙線は石橋（2015）による半割れケースと糸静線が連動するケースの震源域。Nishimura et al. (2018)および地震本部（2015）より編集。

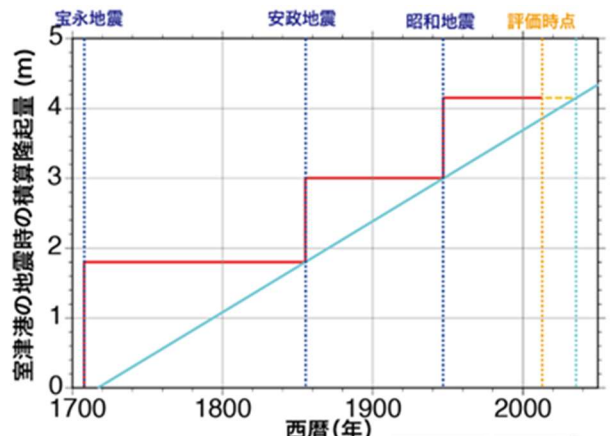


図3. 履歴から推定される次の地震までの間隔

地震本部（2013）「南海トラフの地震活動の長期評価（第二版）」より。右は時間予測モデルを開発した書籍の表紙。



次の南海トラフ巨大地震が発生したら富山はどうか？ 南海トラフ地震が太平洋側の海溝型地震だからと言って、日本海側は安全と考えるのは明らかに間違いです（図4）。

幕末以来160年の静寂を破る元凶が地元の活断層地震でなく南海トラフ地震であるなら、震度4～5弱は県民の多くが人生で初めて経験する強い揺れでパニックになります。これが現在の富山県が抱える脅威です。

ところで防災士教本には、2011年東北地方太平洋沖地震（以下、日本海溝地震）に関する地震学からみた教訓から、地震発生の規則性を過度に仮定せず、連動発生パターンの多様性を十分に考慮した対策を講じることが重要と記されています。この教訓は当然、同じ海溝型地震である東海・東南海・南海地震の連動発生パターン（図1）の多様性にも当てはまります。さらに、大地震の連動現象や経験則偏重の弊害などは、2016年熊本地震でも指摘されました。

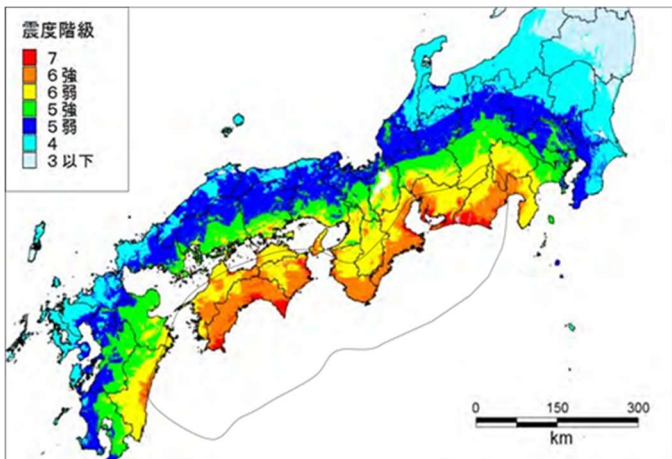


図4. 南海トラフ巨大地震の想定震度分布
富山では震度4～5弱が予想される（内閣府資料）

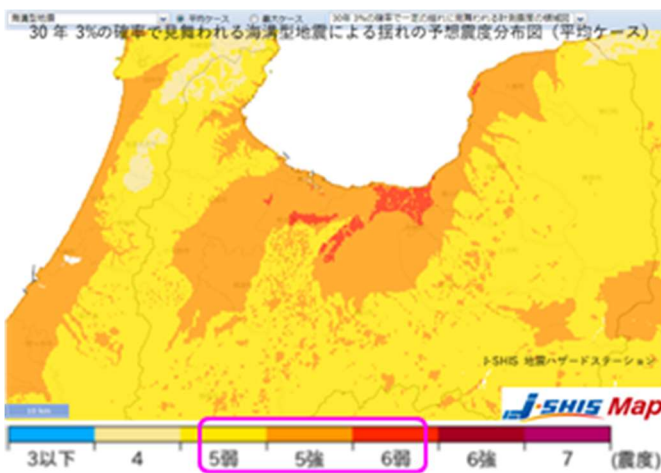


図5. 震源を特定しない海溝型地震の揺れ
南海トラフ地震の揺れに日本海東縁の連動地震が重なる場合など多様な海溝型地震による予想震度分布図（J-SHISマップより）、図4とは色使いが異なるが、富山は震度5～6強が予想される。

2011年日本海溝地震が教えたもう一つの特徴は「海溝型巨大地震と内陸活断層地震の連動」です。同年3月12日には長野県北部地震M6.7と秋田県沖日本海で



M6.4が、3月15日静岡県東部（富士宮市）M6.4、10月5～6日に黒部峡谷でもM5.4の誘発地震が起きました。これは次の南海トラフ地震に向けて、西日本の内陸や日本海側にも周知すべき警告です。とくに本県にとっては、糸魚川-静岡構造線（糸静線）断層帯や日本海側の活断層の同時活動で直下地震の被災地になる可能性を示唆します。富山トラフでの地震津波、陸域活断層地震による富山湾の斜面崩壊による津波などの発生も否定できません。

政府の地震調査研究推進本部（以下、地震本部）では、M7以上の地震を引き起こす主要活断層帯を個別に診断する「長期評価」に加えて、より広い区域ごとにM6.8以上の震源となる活断層を総合的に評価する「地域評価」を順次行っていて、九州地域、関東地域、中国地域および四国地域の評価が公表されています。残念ながら北陸地域はまだですが。

本県に隣接する関東地域（信越を含む）の評価では、糸静線断層帯がM8.1程度の地震の30年以内の発生確率が30-40%でこの地域最大であることに注意が必要です。関東地域では富士川河口断層帯が南海トラフ地震の震源域東端であり、ユーラシアプレート東縁境界は南海トラフ軸から糸静線断層帯を経て日本海東縁に続く一方、東へは伊豆-小笠原弧の衝突帯が神縄・国府津-松田断層帯から相模トラフへと向かっています。いざ南海トラフで巨大地震が発生した場合、これらの境界断層帯の複数区間でM7.8-8.1程度の地震がほぼ同時に発生する可能性があるのです（図5）。

本稿では具体的な被害予想は省きましたが、速やかな防災減災対応のためには、二次災害や感染症の蔓延による複合災害の様相を含め、この巨大地震の脅威についての的確な情報収集と分析を踏まえたホリスティック（包括的）な備えが肝要です。地震はいつも私たちの油断や弱点を突いて来ます。地域強靱化の先頭に立つ防災士の活躍に期待しています。



竹内 章 氏
（たけうち あきら）

防災士 岩田 哲（立山町）

会員
自己紹介

故郷立山町を離れて40余年、東京で学び働いてきました。都庁を退職後、実家の始末の必要や立山町での仕事の縁もあって、神奈川の自宅と立山町の実家を往復する生活を始めて8年目になります。



富山県防災士会には入会して5年目になります。防災士になろうと思ったきっかけは東京で遭遇した東日本大震災でした。自助の立場で思い知った帰宅困難者の身の辛さ、公助の立場で災害支援に対応する中で直面した住民の皆さんの不平・不満。この体験から、なんとなく共助の立場で防災ボランティア活動がしてみたいなあと思い立ったことです。

そういうことで、共助の要だと思っていますが、地区防災計画づくりを皆さんと一緒に応援していきたいなあと思っています。

オンラインスキルアップ研修会報告

地区防災計画の推進

令和3年6月5日（土）
令和3年度第1回 スキルアップ研修
ZOOM

特定非営利活動法人 日本防災士会 富山県支部
特定非営利活動法人 富山県防災士会 佐伯 邦夫



6月5日に、第1回オンラインスキルアップ研修会を受講しました。参加者は42名。内容は、「地区防災計画について」「マイ・タイムラインとは」「マイ・タイムライン普及イベント実施報告」です。私の住む南砺市の地区防災計画では、市の合併以前の旧町村時代の行政主体の自主防災組織を継続しています。平野部の地域では、自分達は大丈夫と緊張感・ひっ迫感

がないのが現状です、南砺市には防災士の組織、南砺市こころえ隊があり、昨年はコロナ禍の為活動中止となりましたが、主に行政主体の年1回の防災訓練に協力しています。今後も市総務課及び各地区防災士と協力し、より現状を理解し、今回の研修で学んだことを今後の活動に活かしたいと考えています。（記 野原）

当日の資料は、富山県防災士会ホームページのライブラリーに転載していますので、ご参照ください。また、同ライブラリーには、富山県内の地震・水害およびSDGsに関する資料(小杉前理事長より提供)も掲載しています。以降の防災講座の資料としてもご活用ください。

(記 事務局)

各市町村への表敬訪問の実施について

5月31日から6月2日にかけて、理事長、副理事長、事務局にて、富山県・富山市のほか各市町村、報道、関係団体へ表敬訪問を実施しました。富山県防災士会の活動について、いずれの行政・団体からも活動への理解と関心を頂いており、富山市・高岡市・入善町・氷見市・砺波市から、富山県防災士会への講演・研修等の依頼がありました。

今後も各市町防災士連絡協議会等との連携や地区防災計画策定への支援について、行政とも協力して実施していきます。会員各位のご支援をお願いいたします。



令和3年度県市町村総合防災訓練(予定)

富山県	滑川市	8月1日(日)	未定
	魚津市		経田・片貝地区
	上市町		丸山総合公園近く
	舟橋村		舟橋小学校
	入善町	8月29日(日)	各小学校区中心
	富山市	10月2日(土)	大沢野町下大久保地区
	射水市	8月29日(日)	池田地区
	高岡市	8月29日(日)	万葉・成美・能町3地区で防災士の講演
	氷見市	9月5日(日)	宇波地区
	砺波市	9月26日(日)	鷹栖・東野尻・五鹿谷
	南砺市	8月29日(日)	井波地区
	小矢部市	9月26日(日)	若林地区

その他、砺波市で7月18日にHUG研修への依頼の他、秋には氷見市・富山市・入善町でHUG・タイムライン等の研修依頼が届いています。

会員の皆様へは各市町の防災士連絡協議会・ネットワーク等と連動されてのご協力をお願いいたします。

今後の予定

★ 第2回スキルアップ研修会

第2回は8月7日(土)に予定していますが、新型コロナウイルスの影響で参集しての研修が困難な状況が続いています。現時点では、オンラインZoomによる研修が濃厚です。内容が決まりましたら、別途ご案内します。

各種のお知らせは、LINEやホームページ、防災カーちゃん富山のWebページ等でご案内しています。また、LINEや日本防災士会富山県支部掲示板では、直接の投稿も可能です。皆様の活動報告や気になるニュース等をお知らせください。